

738

特254

322

電力問題研究所
社長 波津久 劍

電力問題座談會

出席者(ハロイ順)

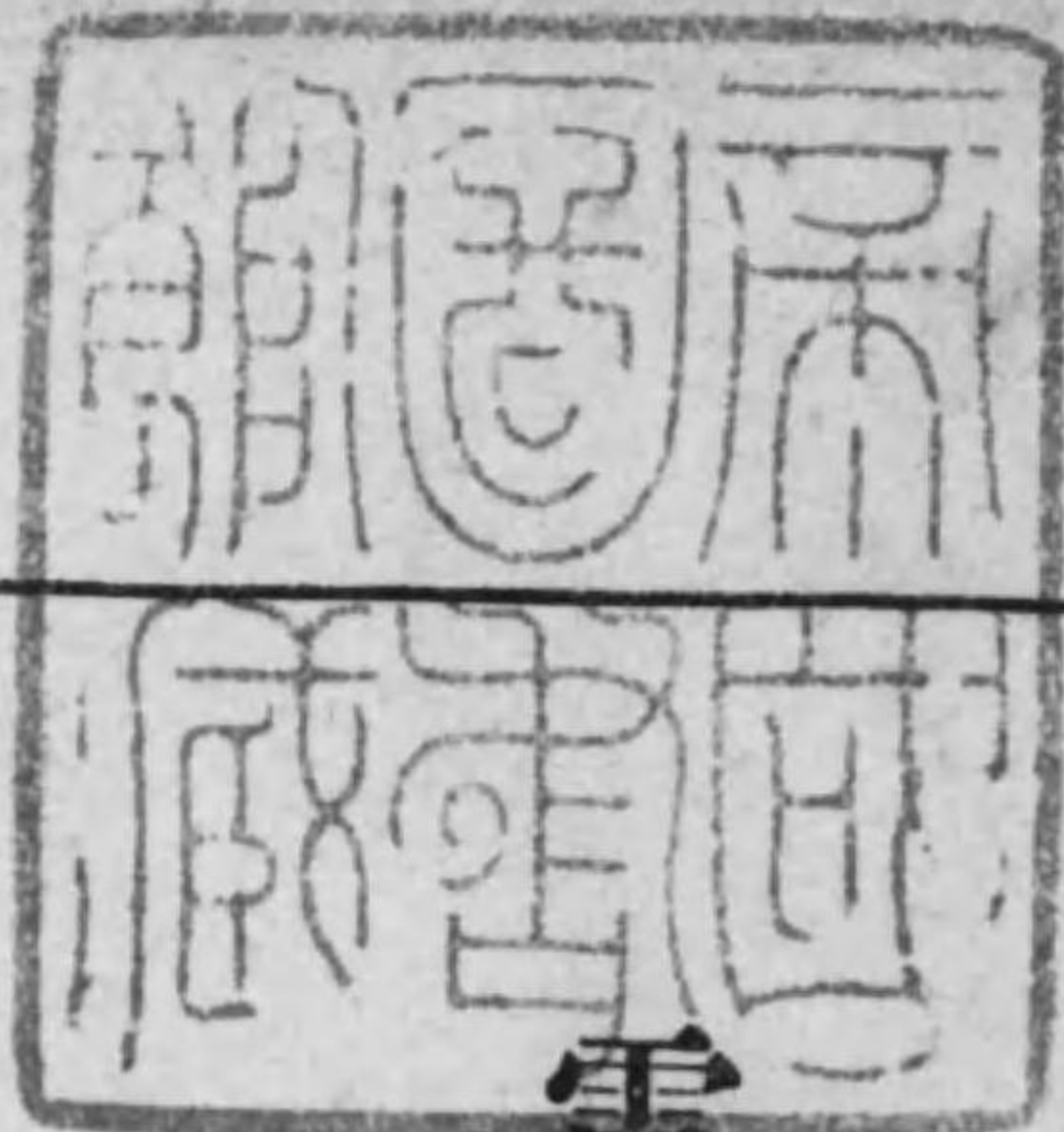
- ◇入江商工省石炭部調整課長
- ◇飯尾發送電總務課長
- ◇今田海軍省軍務局機關中佐
- ◇竹村發送電主事
- ◇大野電氣廳業務課長
- ◇工藤發送電工務部次長
- ◇山田企劃院書記官
- ◇山口電氣廳企劃課長
- ◇馬淵陸軍整備局航空兵中佐
- ◇淺倉發送電建設部庶務課長
- ◇鈴木商工省物資調整課長
- ◇主催者電力問題研究所



始



特 254
322



電力問題座談會



まへがき

いま、日本の経済は、新東亞長期建設とこれが實現した暁に於ける國力の飛躍的發展のために、生みの苦しみを嘗めつゝある。

それが即ち今日當面しつゝある物資の不足である。電力、石炭の不足も、所詮はこの大局的情勢の所産ではあるが、乍然、生産擴充の基本動力たるものゝ不足は國民と共に吾人の重大關心事たらざるを得ない。

茲に於て、本所は官民それらの専門的立場にある權威者の御參集を乞ひ、電力問題座談會を催し、その原因と、當面の對策と、將來の問題について極めて率直なる意見の披瀝を願つた。

本稿は當日の座談會に於ける速記であるが、何れも權威ある人々の意見だけに必ずや一般國民が本問題を理解する上に裨益するところ尠くないと信ずる。たゞ時局上、種々

なる數字を以て示し得ないのは甚だ残念であるが、これは讀者各位の御諒察を願ふより外はない。要するに今後の電力問題解決の鍵は、石炭を中心とする物資の擴充如何に懸つて居り、而してそれは現在進行しつつある我國の物動計畫に基く生産擴充策が如何なるポイントを把握しつつ、技術的に推進せしむるかにあるものと思惟される。

こゝに於て電力問題は一轉して生産そのもの、將來の方針、計畫實施に還元されて來る感はあるが、本研究所は他日再び更らに深くこれ等の點についても觸れ、國民の理解を深めたいと考へてゐる。

本パンフレットは前輯の「統制經濟下の電力問題」と併讀せられんことを希望する。

電力問題研究所長 波津久劍

目次

◎ 國民に充分理解せしめ度い	九
◎ 動力は國防産業の基礎	一〇
◎ 新しい日本の建設Ⅱ生産擴充は事變と關係なし	一一
◎ 電力不足の原因は？	一五
◎ 石炭絶對量の不足と増産對策	一八
◎ 配給統制と消費制限	一九
◎ 六づかしい石炭の配給統制	二一
◎ 十四年上半期は増産不成績Ⅱ無理でない増産計畫	二三
◎ 勞力の狀況・本年二月以降漸減Ⅱ半島人の移入	二四
◎ 外地からの増送と内地の増産割當Ⅱ下半期漸く明朗Ⅱ將來の問題	二六
◎ 炭坑勞働者と紹介所の機能	二八
◎ 樺太炭の移入問題	三〇
◎ 炭質問題Ⅱ火力發電の火が消へる悪質炭	三三
◎ 良質炭との混用條件	三三

- ◎ 悪質炭と設計設備問題……………三
- ◎ 将来の發電計畫方向は？……………三
- ◎ 電力の重點主義と工業立地問題……………三九
- ◎ 生産擴充上から逆に消費規正が必要な段階……………四一
- ◎ 生産・消費の電力計畫化は絶対に必要……………四三
- ◎ 電力消費上産業との組合せ問題……………四四
- ◎ 萬全を期した電力擴充計畫……………四六
- ◎ 電力、鐵、石炭の先行的擴充……………四八
- ◎ 發送電の建設狀況・茲にも人と物の不足……………五〇
- ◎ 建設費は數倍高、原價昂騰は免れぬ……………五三
- ◎ 電力料金の問題……………五三
- ◎ 豫定配當をなし得ない理由……………五五
- ◎ 諸般の國策と電氣事業をどうタイプアップして行くか……………五七
- ◎ 大政治家のカン日滿支一體の計畫……………五九
- ◎ 國家管理を前進せしめよ……………六〇
- ◎ 歴史の編纂は不可、歴史を作る覺悟！生産擴充もこの意氣込が必要……………七三

電力問題座談會出席者 (イロハ順)

日時 昭和十四年十二月十八日
場所 於虎の門 晚翠軒

官廳側

- 商工省燃料局長 入江弘氏
- 石炭部調整課長
- 海軍省軍務局長 今田乾吉氏
- 機關中佐
- 電氣廳第一部長 大野勝三氏
- 業務課長
- 企劃院第四部 山田秀三氏
- 書記官
- 電氣廳第二部長 山口傳氏
- 企劃課長
- 陸軍省軍務局長 馬淵良逸氏
- 航空兵中佐
- 商工省總務局長 鈴木重郎氏
- 物資調整課長

民間側

- 日本發送電會社 工藤公平氏
- 工務部次長
- 同總務課長 飯尾鑿氏
- 同建設課長 淺倉丈夫氏
- 同業務課長
- 同營業部 竹村重武氏
- 主 催 者 側
- 所長 波津久劍(萬朝報社長) 檀野本社顧問辯護士、天草萬朝報編輯局長、笠置本所理事、鹽瀨本所常務理事

國民に充分理解せしめ度い

司會者

本夕は歳末御多忙のところをお差繰り下さいまして、洵に有難うございます。時間も大分遅くなりましたので、この邊で座談會を開催いたしたいと存じます。

動力の不足は生産の擴充に重大なる問題でありますことは、私の申すまでもないことでございます。そこで本日の座談會は、その原因と對策と併せて、今後吾々としてはどう考へて置かなければならないかといふことを、今夕お集りのそれ〴〵權威ある皆様にお願ひいたしまして、國民一般に十分理解するやう、御腹藏のない御高説を承りたいと思ふのでございます。どうか極めて御自由なお立場でお話下さらんことをお願ひ申し上げます。

尙座談會の進行上甚だ勝手ながら鹽瀨君を進行係にお願ひいたしましたから、どうか御諒解願ひたいと存じます。ではこれで御挨拶に代へます。

(大野氏着席)

鹽瀨氏

それでは段々時間も遅くなりますので、この邊で座談會に移りたいと思つてをります。極

く自由に、そして又腹藏のない御意見を承りたいと思つてをりますが、私は進行係といふ譯でなくお話とお話との取次役中繼役のやうな意味合に於て進めさせて頂きたいと思つてをります。

電力、石炭問題の重要性については、こゝにお集りの權威ある方々によつて段々とお話が出るだらうと思つてをりますが、先づ最初に軍部方面のお方から、動力問題について生産擴充との關聯につきまして、一應お話を承りたいと思つてをります。甚だ恐縮でございますが、馬淵中佐殿からお話を承りたいと思つてをります。どうぞ一つ――。

動力は國防・産業の基礎

馬淵中佐 甚だ恐縮ですな（笑聲）私の方から先づ最初に申上げる事柄もないんですけれども、電力と云ひますか、動力と云ひますか、これが凡ての産業の基礎でありまして、産業の基礎であるといふことは、結局現在で云ひますと、國防の基礎である。根幹であるといふことになりますので、電力問題は前々から非常な關心を有つて見てゐる譯なんでございます。

實際我國は相當電力には恵まれた國で、眞逆急激に電力で困るとは思つてゐなかつんですけれども、今年の夏以來いろんな悪い條件が重なりまして非常に困つて來た。そこで實際吾々として必要な、手近の必要な工場までが相當困つてゐる狀況なんです。電力の節約、電力消費の規正等によつて、今までのところは、どうにか國防上重要な工場には餘り不自由をせずに、電氣廳あたりの御盡力もありまして、餘り不自由せずにやつて來たんですが、これからの狀況を見ますと、どうもさう樂に行けさうもない。

そこで大きな消費者である陸軍としましては、この機會を利用して、出来るだけ消費の合理化をやらう、結局消費の合理化といふことは、工場能率の向上になる譯で、能率の向上によつて他の資材の節約も出來、結局一石二鳥、或は三鳥といふことになります。現在軍需工業としては、あらゆる點から能率の向上といふことに力を入れてゐる譯です。

併し能率の向上だけではとても將來の需要には應じ切れませんので、一方能率を極力向上すると共に、これ等の工場を擴充して行かなければならぬ、そこで今後數年に互つて益々工場の規模が増大して行く譯なんです、併しいくら規模を増大しましても、これに必要な石炭がない、電力がないといふことになつたら、工場を建てても何にもならぬ、所詮無駄であつたといふことになるのでありまして、この點は双方が相併行しまして進んで行かなければならないと思つてをります。そこで

電力なり石炭なりを供給せられる側に對して、特にお願いしたいことは、出来るだけこれに併行して、或は少し先行する程度に——元來先行しなければならぬのですが、供給力を増加して頂きたい、たゞ消費の規正、節約といふことで、どうにかなるだらうといふ考へでは非常に困りますので、私の方としては、合理的な消費に努めますけれども、供給者の方としては出来るだけ潤澤に供給するといふことを一つ特に努力をお願いしたいと考へてをります。

新らしい日本の建設

生産の擴充は事變と關係なし

馬淵氏

今後軍需工業はどの位の程度に大きくなつて行くか、又今後何年間それが續くかといふことについては、一寸はつきり申上げられないのでありますが、兎に角現在に較べて相當の大きさに擴げなければならぬといふことは確實であります。

さうして何年これが續くかといふことになりますと、これは絶対に事變とは直接に關係のない問題であつて、事變が續かうが終らうが、我國の工業といふものは近い將來に於て復員といふことは

あり得べからざることと思つてをります。従つて、如何に電力があり餘つて來ても心配はありません、工場を擴張して後で仕事がなくなつてしまひはしないかといふことは、今日では問題にならぬと考へてをります。

今の事變が終りましても、或は歐洲戦亂が終りましても、新しい日本の建設といふことについては、無限の資材を要するのでありまして、鐵にしる、或はセメントにしる、多々益々辯ずであつてこれが餘る、制限しなければならぬといふ状況は決してありません。

大體文明國と稱せられてゐる外國に較べまして、日本の現在の如くに、何と云ひますか蓄積の、これほど貧弱な國は世界に餘りないと思ふ、二千六百年の歴史をもちながら、實に伽藍洞である、國の中はいろんな意味で伽藍洞であります、特に物質方面に於て伽藍洞である、歴史は二千六百年に垂んとしてゐるが、吾々の父祖がエネルギーを費して、どれだけのものを残したかといふと、殆ど残つてゐないんです、これが日本の特異なところではないかと思つてをります。どうしてこんなに伽藍洞であるかといふと、結局鐵がなかつた、それからセメントを使つてゐない、昔で云へば石がない、父祖が營々として汗を流して働いたことは、結局エネルギーの空費であつた。そこでは非今後に於ては出来るだけ鐵を使い、セメントを使い、或は石を使い、折角吾々が働いた結果を、

千年なり二千年後にまで残してやりたい、その時代の吾々の後継者の生活の内容を豊富にしてやりたい、さういふことを考へれば、實際現在の我國の産業に復員といふものはあり得べからざるものであります。

一寸脱線しましたが、これで御免を蒙りませう。

鹽瀬氏 馬淵さん、現在五ヶ年計畫をやつてをるやうですが、これは、吾れ／＼素人の考へといたしましても、必然、第二次乃至第三次計畫位まで行くんぢやないかといふやうに思つてをるんですが、その點について何か――。

馬淵中佐 それは山田さんの方が本職だから……それは恐らく二次でも三次でもしなければ終りません。

山田氏 さうですな。

馬淵中佐 大抵どの國でも四年計畫、五年計畫と一遍で済んだ例はない様ですね。

鹽瀬氏 それでは、大野さん、只今おいでになつたばかりで甚だ恐縮ですが、電力の不足に就いて陸軍の方面からの對策と、要望と云ふやうな點について、馬淵さんから只今お話になりましたが、差詰め現在の電力不足の原因といふやうな問題について、お話を願ひたいと思つてをりますが、尙

又後にこの對策について御意見を承りたいと思つてをりますが、お話の模様によつてはくるめてお話を願つても結構であります。

(入江氏着席)

電力不足の原因

大野氏 お名さしでございましてので恐縮でございしますが、電力の不足が、今年になつて、しかも電力管理實施の初年度に於て、こんな急激に起つて來たといふことにつきましては、御承知のやうに豊富低廉といふ大看板を掲げた電力管理の直後であるだけに、私共といたしましては、何と云ひますか不思議な巡り合せと云つたやうな感じがするのでございしますが、只今お尋ねの、何故昨今の電力不足が起つたかといふ問題になりますと、只今の不足はこれは明かに設備能力の方から見て供給力の不十分といふことではなくして、設備能力を豫定通りに發揮することが出来なかつたことに歸着するんではないかと思ふ。

御承知のやうに、現在の電力の供給力といふものは、水力と火力とによるものでありまして、昨

今の水力と火力との割合は、最近益々火力の方に依存する度合といふものが、強くなりつゝあります。

それにいたしましても、現在のところはやはり水力の方が多くなつてゐる、お集りの皆様は玄人筋のお方々ですから、簡単に云ひますと、今年は非常に湯水であつたといふことであります。それで湯水になれば、結局発電力の方は所謂工場能力がソーコールドパワー、實際に働いてゐないものがウンと出来て來ます。火力の方にしましても石炭の供給の方が、豫想以上に窮屈を感じたと云ふ様な次第で、然もそれが非常に多かつたといふ、この二つの原因からいたしまして豫定通りのパワーが出来ない。つまりこの二つの原因が同時に起つたために、豫想外に強い供給不足になつたのだと思ひます。

元々電力統制といふことは、これが始められるやうになりました起りは、斯う云つた突發的な現象として起る湯水とか、或は燃料問題といふことを目標にして始められた仕事ではなくして、先程馬淵中佐のお話にもありましたやうに、今非常に躍進して、あらゆる方面に於て建設擴充を行はなければならぬ、この日本の現實的、または將來豫想し得べき要求を充たして行く爲めでありましてところがその建設擴充を行ふ可き資材と云ふものが、御承知の様な次第でありまして、勿論電力は

基礎的な他の重要産業と同じやうに相當企業院あたりでも、種々優先的なお取計らひを受けてはゐるんですが、併し、それだけで百パーセントに計畫を實現し得ることが出来ないといふことは、豫期しなければならぬことでありませう。

こう云ふ事情に加へて、それが今申上げましたやうに、殆ど豫測してゐなかつた湯水とか、燃料問題の影響を受けて、思ひもかけなかつた事態に對して、私共としては今一番最初に申しましたやうな、何んとなく運命的な、不思議な感じがするといふところに歸着せざるを得ないと思ふんでござります。

鹽瀬氏 實際つひこの間、丁度豊富低廉といふやうな旗印を以て、電力國家管理が出来上つたばかりだものですから、どうも目につき易い譯なんですな——段々お話を承つて行きますと、電力の不足問題は結局ある程度までと云ひますより、可なり石炭の不足或は炭質の低下といふやうなことが重要問題のやうに考へて参りますが、それにつきまして、現在の石炭政策並に今後どういふ風な方法によつて、石炭の生産擴充を大いに推進して行くかといふ點について、鈴木さんなり、或は入江さんあたりから、どちらからでも結構ですが一つ一應お話を願ひたいのですが……。

石炭絶對量の不足と増産對策

入江氏 電力につきましては、水力とか石炭とかいふものが最も重要な關係を持つて居りまして、石炭政策と云ふものは、電力政策に密接不可分の關係にあります。兩々力を合せて行かなければならぬと思つて居りますが、石炭につきましては、元來我が國はどちらかと云ふと、過去の需給狀況を見ましても、他の鐵とか、銅とか、或は棉花、羊毛と云つたやうな物に較べますれば、國內の自給率と云ふものは割合に高いのであります。随ひまして、一時は石炭過剩時代すらございまして、滿洲から來ます撫順炭の輸入制限と云ふことが問題になつたこともございまして、併ながら、最近の數年來、重工業方面の異常な發展に伴ひまして、石炭の需要と云ふものが急激に増加致しました。殊に事變後は軍需工業方面に需要が飛躍的に増大しました結果、昨今に於きましては石炭の絶對量に於ても不足を告げてゐると云ふ結果になつたのであります。これに對しましては、一方に於て生産力擴充と云ふ方面から極力増産を圖り、企畫院を中心に各省協力しまして、少しでも多くの石炭を出したいと云ふことを極力努力致して居ります。石炭は所謂生産力擴充品目の中の重要な一品

目、重要と云ふよりは、最重要の一品目となつてゐるのであります。尤も内地だけでは不充分でありまして、滿洲は勿論、北支方面の無盡藏なる石炭資源を開發して、これを我國のためにも役立てると云ふ、所謂日滿支を通じての生産力擴充といふことに大いに努力してゐる譯であります。

配給統制と消費制限

入江氏 併ながら何分にも資材關係努力關係等から致しまして、増産と云ふことは中々容易なものではありません。随ひまして、目下の急激な需要増に對しましては、同時に今度は消費の方を抑へて行かなければならぬと云ふところから、消費規正なり、配給統制を實施してゐる譯であります。その消費及び配給の統制は、實は最初は主として製鐵用原料炭、或はコークス用、瓦斯用の原料炭と云つたやうな、特殊の用途を持ちました炭につきましてやつたのであります。これは、さう云ふものは非常に粘結性を要するとか、特に揮發性のものとか云ふ條件がございまして、これをボイラー炭等に使はれましては、肝心の製鐵や瓦斯方面に足りなくなると云ふやうな關係がございまして、先づさう云つたやうな原料炭につきまして、配給を統制致しました。さう云つたものは、どうしても

之が必要な方面のみこれを廻はすと云ふことをやつたのであります。それは既に約一年ばかり前からやつて居ります。併ながら先程申上げましたやうに、今日では石炭全體としての絶對量は既に足りなくなつて居ります。それでさう云ふ原料炭の統制だけでは不充分と云ふことになりましたので、本年の十月一日から、この原料炭を含めまして、石炭全體につきまして配給統制及び消費制限を実施することになつたのであります。その方法と致しましては、例の輸出入品等臨時措置法と云ふ法律がございますが、その法律に基きまして、石炭販賣取締規則と云ふものを作りまして、大體二つの方面から抑へましたのであります。第一は購入の制限でありまして、大體に於て年間一萬噸以上を消費する主要工場につきまして、一々の工場につきまして、その購入數量と云ふものを許可制度に致しまして、一々商工大臣の許可を受けた限度以上には購入することが出来ないことにしました。そして、その購入許可數量と云ふものは、その産業の重要性に随ひまして、一定の率を以て規正して行く。重要な方面には九十パーセント、或は八十パーセント、比較的重要な方面には何パーセントと云ふやうにそれ〴〵率を決めまして制限をして居るのでございます。第二は販賣の方の統制でありまして、石炭の生産業者や販賣業者には、それ〴〵統制團體がございます。例へば昭和石炭株式會社、互助會石炭株式會社、或は問屋の組合と云つたやうな統制機關であります。そ

れ等の統制機關に配給計畫を作らせまして、その計畫を政府で認可致しまして、それによつてどう云ふ方面にはどれだけと云ふやうに配給を統制致してゐる譯であります。即ち一方に於ては主要工業に對しまして、購入數量を制限しますると同時に、一方配給する方面につきましては、團體の力でもつて配給統制を計画的にやらせてゐる譯であります。尙その外輸入炭等につきまは、その販賣について一々許可を受けさせると云ふ方法も執つて居ります。

要するに石炭全體の需給を政府の統制下に置いて、消費と配給の統制をすると云ふことをやつてゐる譯であります。

六づかしい石炭の配給統制

電力方面につきまは、矢張り日本發送電を始めとし、その他の電氣事業會社にしましても、それ〴〵此の兩面からその數量を、寧ろ制限すると云ふ意味でなくて、確保せんがため統制してゐるのであります。唯、何分にも非常に廣範圍に亘る用途を持つ石炭である關係上、圓滑な配給統制と云ふことは難しいのであります。或る方面には足りないことと云ふことも相當に話を聞いてゐるのであ

ります。これも統制實施後間もない関係もございまして、色々そこに摩擦が起ることと思ひますが段々経験を積みますれば、官民共に協力致しまして、相當の効果を擧げ得ると考へてゐる次第でございます。尙石炭の生産方面については、鈴木物資調整課長が前に炭業課長をやつて居られました主としてこの方面の御關係であられましたから、鈴木さんから補足して戴くことに致します。

十四年上半年は増産不成績

勞力不足か最大原因

鈴木氏 それでは大體前任の仕事のことでもございまして石炭の從來の生産事情、今後の對策と云ふやうなことを申上げて見たいと思ひます。

今お話のありましたやうに、石炭が總ての産業上必要な物であることは當然のことでありまして昭和十三年度を基點と致しまして、十六年度に終る四ヶ年計畫が閣議決定を経て居るのであります。其の増産目標に隨ひまして昨年度、即ち昭和十三年度は色々経緯はございましたが、大體に於て先づ所定の目標を達成致したのであります。十三年の需給關係も、今お話の原料炭につきましては配

給統制を行ひましたが、大體に於て需給のバランスを得て昭和十四年度に入つたのであります。今年度物動計畫に於きましても、所定の増産計畫を立てて居つたのであります。それが今お話のありましたやうに、今年の上半期以來、中々豫定のやうに生産計畫が進行しなかつたと云ふ理由は色々ある譯であります。主として一番大きな問題は勞力の不足であります。

無理でない増産計畫 當初 本年度の生産目標を昨年度に較べまして、約一割足らずのものを生産目標として居るのであります。この一割程度の増産と云ふことは、生産計畫が非常に大きいかと申しますと、日本の炭礦の状態から見まして決して無理な計畫ではないのであります。と云ふのは從來石炭は、年々相當の増産をして來たのであります。その過去に於ける生産の率から申しますと、本年度物動計畫に織込んだ、生産目標を達成するために必要な増産額は、決して無理な計畫ではないので、過去に於てこの位の増産をしたことはあるのであります。そこで大體本年度に於ても、需給關係から見て先づこの程度のもを内地に於て供給しやうと云ふ計畫を立てたのであります。それには矢張り從來と同じやうな、一定の勞力を確保し、必要な資材を確保すると云ふことが前提であつたのであります。物動計畫に於きましても、石炭は重要産業の中でも最も重要だと云ふので、資材關係に於て鐵鋼だとか、ゴムであるとか、銅であるとか云ふやうな資材も優先的に考慮

せられて来たのであります。此等の必要の資材に依つて新らしい鑛山を興す、新しい坑道を掘進する、新しい設備を擴張する。そして之が爲に必要な勞力は充足すると云ふことを考へて計畫されたのであります。

勞力の情況・本年二月以降漸減

鈴木氏 所が勞力の充足狀況は十三年は毎月坑夫も總數に於て殖へて参り、本年の二月頃までは兎も角坑夫も充足して参りましたので、今年に於ても大體坑夫を充足し得ると考へて参つたのであります。ところが一般の勞力不足が現はれ始めまして、十四年の二月を坑夫數の最高と致しまして、二月以降石炭鑛山に於ける坑夫が減り始めまして、三、四、五、六、七と毎月殖へるところか減つて参つたのであります。そこで政府に於きましてもこれではならぬと云ふので、御承知のやうに石炭山に於ける勞働者は軍需勞務と同じやうな意味に於て、充分充足に努力すると云ふことに致しまして、全國の職業紹介所方面に於ても軍需勞務と同順位で募集紹介をして、鑛山勞働者を充足せしめると云ふことに致して参つたのであります。この大體の方法と致しましては、各府縣に對して石

炭山に必要な坑夫數の募集割合と云ふことを致しまして、各府縣でこの割當られた員數を責任を以て充足することゝ致したのであります。この結果でもありませんし、又一方に於て旱害等の關係から勞働力に多少の餘裕が出来た關係もありまして、七月の終り頃から減少の傾向が止つたのであります。八月頃からは又漸増しつゝあるのであります。斯う云ふやうな關係から、豫定のやうに仕事が進捗しないので、上半期に於ては大體に於て去年の上半期の程度しか出炭し得なかつたと云ふことになつたのであります。一割近くの増産の豫定が、坑夫が殖へるところか減つてたため上半期に於ては大體去年の出炭りよも僅かながら殖へた程度で餘り増産にはならなかつたのであります。

半島人の移入 更に御承知のやうに女の勞働者を鑛山に入れることは法律によつて禁止されてゐるのであります。斯う云ふやうな勞務の需給關係なので、勞働力を充足する爲にはこの際法律で禁止してゐる女子勞働者の入坑制限を撤廢しやうと云ふので、八月末に撤廢されたのであります。尙一方半島人勞働者をこの際鑛山の方に入れると云ふ方法も計畫されたのであります。これは御承知のやうに半島人の内地移入は昭和九年頃であります。禁止されることになつて居つて、所謂一般勞働者としての入國は制限されて居つたのであります。勞務動員計畫に於きましても、この際積極的に半島人勞働者を内地に入れることに致しまして、これが漸く九月の始め頃からポツ／＼入るや

うになつて參つて居ります。最近に於きまは半島人も約一萬近い者が入つて居ります。斯う云ふやうな勞務充足の努力を致しました結果、最近では坑夫の數も未だ〳〵豫定の數字には達しませんが相當殖へて來てゐる。

外地からの増送と内地の増産割當

鈴木氏　そこで今お話の下半期の需給關係で相當の不足を豫想される状態なので、特に供給の増加を圖るより、他に方法がありませんので、先般企畫院を中心に致しまして、日滿支の打合會をやり、當業者も色々御出席になつてここに樺太、朝鮮、臺灣、それから滿洲、北支方面から相當の増送を願ふことになりました。目下着々その増送の準備をし、その手續を進めてゐるのであります。それと共に内地に於きましても、各礦山に命じまして、相當の増産割當をやつたのであります。それが大體十月の始めでありまして、この増産割當を受けました礦山に於て、それに應じた出炭計畫を立ててやつてゐるのであります。最近までの状況を見ますと、上半期に於ては大體去年とトン〳〵の出炭実績でありましたが、坑夫減少の傾向が七月末に大體止つて、八月頃から稍殖へて來た

關係もありまして、九月頃から増産の傾向を辿つて居ります。昨年の出炭実績に較べますと、毎月かなりの増産の実績を擧げて居ります。九、十月の成績は未だ豫期の如く十分ではありませんが、更に十月始めに増産割當を致し、資材につきましても、資材は鐵礦に致しましても、他のものに致しましても、特に石炭の増産に必要な資材につきましても、石炭は他の産業よりも重要性を持つて居りますので他の産業は例へば九十とか八十とか七十とか云ふ割合なら、石炭については百の重要度を見ると云ふやうに、先づ優先的にやると云ふ方針を決定して、増産に必要な資材は總ての産業に優先して確保すると云ふ方針に基き、割當を致して居るのであります。隨て今のところは未だ豫期の通りの増加はして居りませんが、目下總ゆる努力を致して居るのであります。その本當の効果を見るのは十二月、一月頃だらうと考へて居ります。一月以降に於ては相當に出るのではないかと思つて居ります。

下半年漸く明朗　斯う云ふ譯でありまして、本年下半期の供給豫想は當初總平均約一割五分位は不足と豫想して居りましたが、今申しましたやうに内外地の増産と増送によつて出来るだけ供給力を増加すれば相當程度の制限緩和も出来るのではないかと考へる譯であります。この増産、増送と云ふことが出來ました場合に、これを矢張り産業の重要性に應じまして、電力であるとか、或は製

鐵工業であるとか云ふやうな、緊急止むを得ない必要な方面に供給の増加を圖つて行くべく増産は進みつつあるのであります。

將來の問題 尙これは將來の問題になりますが、どの位日本で増産出来るかと云ふことになりますと、これは、目下企畫院を中心として審議計畫中でありませんが、日本でどの位増産を圖り、又北支、滿洲方面でどの位増産出来るかといへば、結局何と申しましたが、日本全體の需要に對して供給する石炭は内地が大部分を占めてゐるのでありますから、今差當りの急激なる需要の増加に對して、假に滿洲、北支方面に於けるいくら豊富な資源がございましたも、これは急速に開發して、直に日本の急激の需要増加を充てると云ふことは、差當りの問題として困難であらうと考へられるのであります。各方面を睨み合せながら將來の日滿支を通ずる石炭の開發計畫と云ふものを決定して行かなければならぬと考へて居ります。來年度の問題と致しましては、矢張り内地の増産と云ふことについて、可なり大きな力を拂はなければならぬ。斯う云ふやうに考へて居ります。

炭坑労働者と紹介所の機能

鹽瀬氏 現在職業紹介所を使つて勞務充足に非常に御努力になつて居る様であります、その成績はどんなものでございますか。

鈴木氏 これは御承知のやうに、職業紹介所が全國に漸く完備致しましたのは、昨年十一月の末でありまして、職業紹介所が斯う云ふ勞務者の紹介を一手に引受けると云ふやうな制度と致しまして出來たのであります、未だ充分に機能を發揮するに至らないのであります。隨て只今までのやうに坑夫が思ふやうに集まらなかつたと云ふやうなことも、一方に於て從來のやうに、自由に工場、鑛山で職工、鑛夫を募集すると云ふやうな、所謂自由な緣故募集と云ひますか、自由な募集と云ふことは、一方に勞務の需給調整の見地から調整を加へられまして、紹介所は全面的に機能を發揮出來ないと云ふところから、充足に困難を來したのであります。併し最近漸次これも軌道に乗つて參りましたし、他方厚生省と連絡を取りまして、最近に於きましては鑛山労働者の募集徹底の爲、職業協會と云ふものを作つたのであります。この職業協會と云ふものは鑛山の鑛夫の募集等に責任を持つてゐるもので、その會長に八田さんを推したのであります。坑夫の募集につきましては何處の鑛山に何名を、募集してやるかと云ふ割合につきましては、商工省と厚生省と連絡致しまして、その充足すべき所要員數の割當を決定して居ります。各職業紹介所に各鑛山に充足すべき數を割當

てまして、職業協會と紹介所と一緒にしまして、方々の各村等に行つて募集して来る。ポスターを持つて行くとか、活動寫眞、或は座談會を開くと云ふ風に致しまして、鑛山事情の徹底普及をやると共に、所謂募集従事者を以て組織した職業協會の人達はその村々を歩いて、さうして鑛夫を募集する。斯う云ふやうに致しまして、一方に於て職業紹介所の機能を發揮すると共に、從來の募集従業者の智識経験を併せ活用して募集すると云ふことにしまして、この成績が漸く八月末頃から現はれて來た斯う云ふやうに見て居ります。

樺太炭の移入問題

飯尾氏 一寸伺ひますが、我々會社の立場から斯ういふ不安を多分に有つて居るのでありますが、樺太の石炭でござりますね、あれが搬入される期間は相當量が入るがこれが荷役が出来なくなつた場合に滿洲の石炭でも移入されぬと必要量の入手が困難ではないか、ところが只今のお話で滿洲、北支の方の分も早急には期待出来ないといふ場合に内地の石炭、北海道、九州のものだけで相當量供給の期待は出來ますかしら……。

鈴木氏 これは今申したやうに、北海道、九州といふやうなことで無論出來ないと思ひます。來年の下半年頃には滿洲、北支等から相當入ることになつて居ります。併し樺太の問題に付きましては冬季間は思ふやうに入りません。隨て樺太方面からの内地輸入は四月の末位から十一月の半ば位までに持つて來るより仕様がなないのであります。冬場は樺太方面のものは期待出來ません。

飯尾氏 ところがですね、私の方で石炭の一番需要の多い時期は一月から三月までの間で非常に多量の石炭が必要な譯であります。この三月位までの御見込は如何でござりませうか。

入江氏 これはですね、石炭の配給は上半期と下半期とに分けて計畫して居ります。上半期に於きましては樺太炭を相當に見込んで居ります。下半期は樺太炭が入らぬので、それを補ふのには他の炭を増すといふ計畫で考へて居りますから、冬場の樺太炭の不足といふものがそれだけ穴になるといふ風には考へて居らないのであります。併し矢張り冬場になりますれば單に樺太ばかりでござりません。北海道あたりでも非常に輸送が困難になります。さういふ點も考へまして理想を申せば相當の貯炭を有つやうにならなければなりません、そこが今日の石炭の需給状況から致しまして非常に困難が多い、隨ひまして今日の貯炭數量その他から見ますれば決して樂觀は許されない、大いに努力して石炭の獲得に官民協力してやらなければならぬといふ實情でござります。

炭質問題・火力発電の火が消へる悪炭質

鹽瀬氏 炭質の問題が出たやうですが、火力発電と炭質との問題について如何でせう。工藤さんあたりから一つお話願ひたいと思ひますが。

工藤氏 大體火力発電所のボイラーは凡そ六千三四百カロリーの炭を標準にした設計になつて居りますが、近頃出来ました火力発電所では、六千一、二百カロリーの炭を焚く様になつて居ます。これは設計標準を六千カロリーとして居るのでありますが、實際は六千一二百カロリーでなければ能率よく焚けないといふ様な設計になつて居ります。それで石炭のカロリーが減りますと、五パーセント位の範囲では割合に力が減らないのでありますが、それ以上減つて行きますと急激にボイラーの蒸氣を發生する力が減りまして、カロリーが五パーセント減れば一割の力が減るといふやうになるのであります。これが進みますと今度は火が消えるやうになつて来る、燃えてゐますものがパツと消えてしまふ、さうしますと大きなボイラーでありますれば、一つのボイラーで三萬キロも発電して居るのであります、それが火が急に消えて其三萬キロが急に無くなつてしまふ。十罐も並んで

焚いて居りますと、その中の三罐も四罐もが次ぎ次ぎと火が消えて来る。廿萬キロも発電して居りますのが、火が消える爲に一時に十萬キロも力が減つてしまふといふやうな事になりました、非常に発電が不安定になります。去年は平均で六千三百カロリー位の炭を焚ひて居りましたが、本年は一割以上悪くなつて居ります、最近は一割以上も悪い炭が入つて居るのであります。これは炭が段々不足すると自然無理な生産をする關係もありませうし、又小山を掘りますと、洗炭設備の不充分なところでは洗はない炭を出して居る關係もあり、炭質は非常に悪くなつて居ります。その悪い炭は外の工場等では使ひ悪い。発電所ではなんとか便ひこなしが出来るといふやうな關係から、自然悪い炭が発電所に集まることになる。そう云ふ譯で炭質が悪いのであります。

良質炭との混用條件

工藤氏 それで非常に困つてゐる。それが貯炭場に相當貯炭が有ります時には良い炭と悪い炭を混ぜて焚くことが出来ます。例へば五千カロリー以下、甚しいものは四千カロリーといふやうな炭もあります、そんな炭といふ樺太炭のやうなものを混ぜて使ひますと相當に使へるのであります

貯炭場に炭が非常に少ないと、いゝ炭が入つて來なかつた時には悪い炭ばかり焚かなければならんといふやうな譯で、最近屢々火が消えるといふことが起るのであります。非常に苦勞して居りますのであります。今年は、先刻大野さんからお話がありましたやうに、設備の方ではさう困つて居らんであります。今後發電所の増設等が資材の關係で意の如く行かん。電力の方は段々増へるが設備の方が増へないといふことになりますと設備の方が問題になつて來ます。さういふやうになつて來ますと炭質を餘程上げて貰はなければ困るのであります。設備の新設増設が、資材の不足のために意の如く行かなくなつて來るから良質の石炭を得て同一の設備で餘分に發電出來るやうにせねばならぬのであります。明年度以降にはその點に付て商工省なり企畫院方面の御諒解を是非とも得たいと思つて居ります。さういふやうなわけで炭質が非常に低下して困つて居るのであります。

悪質炭と設計設備問題

鹽瀬氏

石炭の増産計畫に當つて炭質別といふやうな意味はないのでございますか。

入江氏

それはこれから發電事業が起らなければならんといふやうな關係があれば、矢張りそれに

適した炭を極力増産するといふやうに考慮してやつて居る譯であります。併しながら一般の炭も足らないのでござりますから、結局さういつた特種の炭ばかりでなく、その他の一般の炭に付きましても増産を圖るといふやうにやつて居る譯であります。尙ほ今の炭質の點で、私素人で良く知らないのですが、ドイツあたりでは非常に悪い炭を使つて發電して居るやうであります。今の宇部のお話のやうに非常に悪い炭で發電をして居つて、只今でも悪い炭は比較的澤山ありますので宇部は殆んど困らぬといふやうな状態にあるらしいのであります。さういつた悪い炭を利用するやうな發電所の建設といふやうな計畫は考へられないものでござりますがね。

工藤氏

只今計畫して居ります發電所は、從來のものより、悪い炭が使へるやうに設計して居ります。日本の炭は今お話のドイツの褐炭のやうに悪くはありません。それで今までの發電所は六千三百四万カロリー、悪い炭を標準にした場合でも六千カロリー位でそれ以下のものを標準にしたものは少ないのであります。今後の設計は其點をよく考へて居ります。

入江氏

これは發電所ばかりではござりません。外のボイラーなり瓦斯發生爐などでも我國が從來石炭に比較的恵まれて居つたものですから、設計その他が非常に贅澤な様でござります。アメリカあたりのあの豊富な石炭國で使つて居りますボイラー或は發生爐と言つたやうなものを標準にして

それを真似て、日本のさういふ極めて悪い炭を使ふやうなボイラーや發生爐を作らないで来たといふやうな實情にありました。それが今日のやうに炭の不足時代に直面致しまして良い炭が得られない爲に非常に苦勞して居るといふやうな状況なのであります。これ等はもう少し設計の時に例へばドイツあたりのやうに、非常に悪い炭を目標にして拵へたものを手本にしましてやつて居つたならこんな困りやしなかつたらうと考へますが、將來の問題としてはそこの點も考へなければならぬのぢやないかと考へます。

工藤氏 今から十年程前までは、日本の發電所のボイラーは日本で設計が出来なかつた、それで外國から殆んど大部分をイギリスから取つて居りました、此方から炭の見本を送つてこれに適したボイラーを作つて送つて呉れといふことになつて居たのですが、良い炭を使つたボイラーは型が小さくて値が安い、ドイツの褐炭のやうなものを使ふボイラーは大きくて値が高い、それで値の高いボイラーより値の安いボイラーを奨めて来る。當時火力發電所は少なかつたので我國からのボイラーの注文は少なかつたので特別に設計するのは面倒臭いから標準型を見積つて来て、日本の石炭に適する設計をしたと稱して居りましたが、それは嘘で向うの標準型の物を押付けて居つたのであります。ところが今から十年程前から日本で發電用大型ボイラーを作るやうになつた。そこで發電所の、

技術者が協力して日本の石炭に適するやうなボイラーを設計する様になりました。英國や米國の如く熱量の高い石炭を焚くやうなものでなく、熱量の低い石炭を焚く設計が出来たのであります。それで六千カロリー程度のもを焚くやうなボイラーを設計することになつた譯であります。

今田氏 今のお話ですが、英國から来た船は、日清戦争で英國から殆んど石炭が來なくなつて、これはいかんといふので煉炭を作つてそれで軍艦は日露戦争をやつた譯であります、向うの設計を持つて來るとそんなことになつて、日本のものぢや動かないですね。

將來の發電計畫方向は？

鹽瀬氏 今田さんは海軍での、その方面の専門家と承つて居りますが、海軍方面から見た石炭乃至動力問題といふやうなことに付てお話を願ひたいのですが……。

今田氏 これは恐れ入りました。餘計なことを言つて（笑聲）今色々お話を承つて居りますと石炭問題といふことに焦點が向いてしまつたやうですが、電気其の物も振返つて見る必要があるのぢやないですか、例へばですね、先程馬淵さんがお話になつたやうに名實共に日本は東亞の盟主として

立つて行かなければならん、それには重工業能力といふものが現状ではとても満足出来るものではない、重工業能力を擴充する爲にはその基礎であります石炭、鐵と云ふ様なものは先づ擴充しなければならんと思ふのですが、結局その石炭にしても色々お話を聞いて見ますと掘ることに相當困難があり、さう無闇の増産といふことは相當に困難がある。少なくとも電氣はですね、一つ石炭に依存しないで將來は擴充して行くといふ方向に若干でも進んで行かなければならん、例へば發電所の建設に就きましても成可く石炭は焚かなくて行くといふ方面に進まなければならん、斯ういふ點が一つ考へられるのであります。もう一つさういふことを言ふとそれぢや水力の源泉といふものは日本ぢやもう多くはないといふことになりますれば、非常に電力を食ひます基礎工業、重工業の基礎産業といふやうなものは朝鮮なり滿洲なりシヤムなりですな、先程四川省を堰止める笑話もありましたが、臺灣なら臺灣といふことを考へる時に、火力といふものを考へないで成可く水力といふことに就きまして考へ、基礎産業なりそつちの方に行くといふやうな、これは私共ぢやないそこに居られます山田さんあたりの御考へられる問題ではあります、さういふやうな點も考へて行かなければどうしても行詰つてしまふと思ひますが……。

電力の重點主義と工業立地問題

大野氏 只今のお話のやうに、實際、我々は電力の増産、電力開發をどの方向にむけるかは大きなテーマですね、しかし今の統制經濟は御承知のやうに大體價格の統制といふものに重點が置かれて居つたのです。電力にしても公益事業として一番社會と接觸を持つ立場にありますので、自然料金の問題が問題とされる様になるのも止むを得ません。然し現在は重點が變化して來てゐるやうですが、それは兎に角として設備の擴張といふことは、價格を高めることになるのだからそれを無駄なく整理して行かうといふには設備關係の統制が必要で、こゝに統制の理由もあつて、その源流を尋ねて行けば價格の統制といふことになるやうです。今後と雖も豊富低廉といふ言葉が表示するやうに料金の問題と共に量の問題であると思ひます。それなら今日に於ては何方に重點を置くべきかと言へばそれは量の問題と思ひますが、そこで日本の國土に即して水主火従、水力の大規模開發をやつて行く、それには宜しく全國的需要を目標として大いに理想的な開發を爲すべしといふことが提唱されるやうになつて、それが實現される運びにも至つて居るのであります。只問題はこの色

々な方面に於て膨脹發展して行かなければならない日本の今日の現状では、電力の方では特に重點主義でなければならぬといふことでございます。

今田氏 だから大變失禮なことですが、この御影石の中國地方なんかは酷いところで、雨が降つたら直ぐ流れてしまふといふやうなところにダムを作つても仕様がないですよ。

大野氏 さうですね、それから先刻のお話に、日本内地の水力に期待が持てなかつたら宜しく大陸の方にも特に電力を大量に移すといふお説もありましたが、さういふ點も、これは日滿支を綜合しての産業計畫を樹てなければならぬといふやうな今日に於ては非常に傾聴すべき御意見だと思ひます。日本で現在出來て居ります発電所では、最近出來た信濃川の発電所が、僅に〇萬キロ足らずのもので一番大きいのです。これが將來發展すれば〇〇萬キロ位になるでせうが、それが恐らく一番大きなものでせう、ところが一度び海を渡つて朝鮮の地に入れば鴨綠江に出來てゐる鴨綠江水の発電所は、一つの発電所で〇〇萬キロといふのですから問題にならんですね。

今田氏 僕は去年飛行機から長津江、赴セン江の「ダム」、鴨綠江等を見たのですが、これはいかなと思つたですね、日本の山を見てから……。

工藤氏 火力発電所にしましても石炭の山の近くに作つて戴くのですね、宇部は炭坑から直ぐ持つ

て來られるから問題はないのですが、一々船で運ぶとなりますと、風が吹いた、雪が降つたといふことになりますから……。

馬淵氏 私等の考でも発電所はさういふところに作らなければならぬと思ひます。隨て軍需關係の工場もですね、好い加減に作つておいて後になつて石炭がない、人がないと言つても始まらないので是非さういふところへ持つて行つて作らなければならぬ、國防的見地からも立地問題は重要ですが、幸にも之等の條件は大體に一致するものが多いさういふ意味から、朝鮮あたりは大いに意義がある。更に進んで大陸の彼方へ段々と、電力を消費する工業を持つて行かなければならぬと思ひます。

鹽瀬氏 如何です山田さん、企畫方面の話になりましたから、山田さんあたりからそれに就てお話を承りたいと思ひますが……。

生産擴充上から逆に消費規正が必要な段階

山田氏 今御話を伺つて居りますと石炭と電力は日本にはあるといつて安心されて居りましたが、

御承知の通りの状態になつてしまつた。斯うなると眞先に消費節約といふ考へが起きて参りますが私共勝手に言はして頂くなら石炭、電力は日本の産業のために國民生活に於ける空氣や水の如くであつて欲しいものだと思ひます。またさういふ風に努力すべきだと思つて居ります。併ながら現在生産擴充が進行して來るのが相當程度のピッチでありまして理想は理想であつても生産擴充上から逆に消費規正を必要として参るのであります。此の事は米に似たものがあるのです。明治御維新から最近までの間何とかいひながら國民の殖える割合と同じやうに米も殖えて來た、數量等に於ての過不足といふものは、餘裕のある程餘つては居ないけれども好い加減にやつて來られた、それと同じやうな具合に持つて行けばよいので、電力の國家經濟に於ける大きな計畫化といひますか、合理的、數字的合理化といふやうなことが今後絶対に必要だと思ひます。唯今までの生産力擴充はどつちかと申しますと色々な産業が自由な形に自然に發達して參つたのであります、今後限りある資源と限りある勞力とを以て最大の生産擴充を絶対にしなければならぬのであつて、限りある資源を誰でも自由に使つたら、それこそ支離滅裂になりませう。併し乍ら消費が完全に計畫することが出來たならば丁度米の生産が殆ど餘つて居ないので拘らず我々が平氣が腹一パイ米を食べて居れたと同じ形になりませう。問題は其の計畫化如何にあります。

生産・消費の電力の計畫化は絶対に必要

山田氏 其の解決の一點はお話のあつた電力といふものゝ日滿支を通じた、一つの計畫化といふものに歸着するだらうと思ひます。次に國內の電力の消費の仕方にも電力發送との電力消費者の位置さういつたものの計畫化が必要と思はれます。尤も之は電力ばかりではありません、石炭についても同じでございます、一寸脇道へ外れて申しますと非常に似通つた状態が石炭と電力にございます。例へば石炭は北海道に澤山埋藏せられて居ます。日本内地の將來の石炭の望みは何といつても北海道だらうと思ひます。大きな埋藏量が既に充分に手が着いて居つて開發されるといふ可能性あるといふのは北海道であります、この北海道を一體石炭の生産地としてのみ考へて居つてよいかといふことになります。將來の尨大な石炭を輸送する船をどうするか、港をどうするか、貨車をどうするか、此う云つた點を考へますと北海道の炭を京濱地方に運ぶ外に石炭を多く必要とする生産擴充を北海道で行ふべきであると云ふ點に歸着します。然るに北海道には御承知の如く工場らしい機械工場が極めて僅かしかありません。其處で機械の故障があると船で以て東京に運び、大阪に運

び、九州に運ばなければならぬ、そこでは工業地としての素地が出来て居ないといふことになる。此處に例へば有力なる鑛山機械、化學機械工場を刺戟する工業立地的施設の問題が起りませう。之に似た、之より更に深刻な工業立地的計畫化が電力と、其の消費産業に付て考慮せられなければなりません。更に此の點を離れましても、國內の電氣そのものの消費方法の計畫化に問題があります。

電力消費上産業との組み合わせ問題

山田氏

只今使はれる意味の電力の消費規正は、生産擴充の過程に已むを得ないことでありませうが、將來は産業能力と電力との均衡を如何に保つかに問題の點を見つけなければなりません。或る産業は豊富な夏の電力に合せて置いて冬遊ばせるがよいか、或は工場を湯水期に合せて作つて置けばよいか茲に問題があると思ひます。之は今迄も考へられて來た所ではありませんが、將來は更に深く研究を要しませう。さういふ風な産業の計畫的擴充といふものが絶対に電力の見地からも必要となりませう。御承知の通り現在の日本の限りある、且恐くは高い値段につく電力を如何様に使つ

て行くのがよいかには問題があります。私は日本の電力は之から飛躍的な發達をすべき精密工業に使つて行かなければならないと存じます。朝鮮なり臺灣なり滿洲なりはその先の方の材料工業の分を受持つて呉れるだらうと存じます。これはどなたがお考へになつても其處に結論が行くだらうと思ひます。

電氣機械工業の問題 之に對して日本の電氣技術といふものが充分の準備が出来て居るかと思ひますと、充分の準備が出来て居るとは思はれません、その點について、例へば、發電機械、は何でも國産で出来るやうな顔をして居るが、澤山の部分品、完成品に付て輸入品を使つて居ることは御承知の通りであります。將來盛に大きな電力を開發して行かなければなりません。之に對して更に機械工業の準備を必要と致します。日本の電氣機械工業は他の工業に比べて相當發展を遂げたものであるといふことはこれはお互ひに認めていゝと思ひます、併ながら唯今申しました通り將來の電力は日滿支を通ずる電力開發を實行するためにはそれだけの準備が要ると思ひます。それでこそ始めて第二次、第三次と雄大な計畫が出来ると思つて居ります。

萬全を期した電力擴充計畫

四六

鹽瀬氏

山口さん早速ですが大分今まで話が進みまして、また一轉して電力擴充計畫の方に話が入つて参りましたが、山口さんから何か將來の計畫のやうな點についてお話を願ひたいと思ひます。

山口氏

途中から参りまして今までどういふお話がありましたか存じませんので多少重複するか知れませんが、唯今企畫院の山田さんから主として電氣を中心としたお話がございましたが、生産力擴充計畫の全體的な方向といふ點から非常に示唆に富むお話があつたのでありますが、私共かね／＼電氣の方だけを擔當して居りますが、常に今お話のやうな考へ方を有つて居りますので極めて同感なのであります。由來御承知の通り電氣の擴充につきましては昭和八年頃からでございますが、現在では電力審議會に諮ることになつて居りますが、さういふ諸同機關を有つて居りまして朝野の御意見を聴きまして、そこで向後五ヶ年に亘る全國發送電豫定計畫を決定することが出来ます。從來は未だ國家管理になつて居らなかつた際でありますから、その計畫を基準にいたしましたして民間から申請のものの許認可をして参つたのであります。御承知のやうに今年四月一日から電力管理が實

施されましたそれ以來は計畫の設定方針、内容構成等も變更せられましてもつと徹底的に計畫を細かくしまして相當具體的な建設計畫のやうな形をとつて、從來のやうな許認可の基準から進んでそれを本として發送電會社に對し建設命令が發せらるゝことになつて來ます。さういふ點につきまして豫定計畫の立て方も從來の監督行政式が今日では管理行政式といひますか、さういふやうな色彩を多分に有つて参つたのであります。昨年度即ち昭和十四年から昭和十八年に至る從來の豫定計畫は五ヶ年計畫であります、それを樹てます時に丁度昨年からのことです。電力の方の豫定計畫を樹てます時に中心的對象となつたのは生産物擴充計畫であつて、國家としてどうしても此の生産擴充のために其の所要電力といふものに對しては、萬善を期したいといふ意味で當時色々やつた譯です。結局豫定計畫を樹てます際に從來の設備なり、從來の需用實績なりといふものを見て、それは困難はありますが、當時生産擴充計畫は充分吟味いたしましたして商工省或は企畫院から各生産部門の將來の擴充計畫關係資料その時の電力使用計畫といふやうな資料を頂き或場合には擴充生産豫定高を地方別年度別にしてそれを電氣的に換算いたしましたして、それを基準にして生産擴充に對して賄ふべき供給力を算定してその供給力を出すための設備を研究したといふ風で去年あたりから非常にやり方が變つて來ました。從來よりも計畫の規模といふものも大きくなつて來ました。

四七

電力・鐵・石炭の先行的擴充

四八

山口氏 一應吾々が目標として居る生産擴充計畫は昭和十六年度を目標にしこれは四年計畫になつて居る、これに對應する電力計畫といふものを立てたのであります。たゞ御承知のやうに電力設備といふものは設備を作りますのに相當の期間を要します、相當の資材も要ります、それからまた勞務者にしましても資金にしましても相當莫大なものであります、兎に角去年やりました時の生産擴充計畫は各部門の所要電力を想定いたしました、それに對應して計畫を立て居つたのでございますが、十六年度迄のものを相當見定めるのみでなく吾々はそれより先を見て居ります、それで苦心を要するのであります、今年立てます時は兎に角去年やりました電力生産擴充を計畫の土臺に置いて、十七年から先はこの十六年までに出来る供給量並今後の需用の著増に隨つて設備なり建設計畫も大きくなつて行きますし、將來の第二次と云ひますか生産擴充計畫の指導方針は内外地を通じて生産擴充といふものをしつかり見定めた上でやつて行くのでありませうが、何しろ戰時經濟時代で資材、物資、勞力等の逼迫して來ることが目に見えて居るものですから日滿支經濟ブロック、こ

れを通して適當に進行して行くために五ヶ年計畫を遂行すべき一大基準或は方針を作りたい、私共から忌憚なく申上げれば差當つて生産擴充をやるために此の際最もいゝ方法は生産擴充部門の中でも最も基礎的な部門石炭、電力、鐵といふやうなものに先づ最初に力を注ぎ後はそれに追隨してだん／＼に行く何も彼も一緒に萬遍なくやられる方法は効果的でないやうな氣がいたします。

産業立場の問題 隨つて將來内外地を通じて考へ内地に是非とも置きたいといふものを内地に置いてその他のものは、他の方面へ持つて行くといふことはどうしてもしなければならぬと考へます、大陸の資源は日本より多いと申しましても今後の資源といふものは慎重に活用すべきで、内地水力資源は相當經濟的に見て割高になつて居りますし滿洲朝鮮あたりから見れば比較にならないのでありますからこの邊の考慮を充分なすることが是非とも急務だと思ひます。それ等につきましましては詳しいことは企畫院軍部方面でもさういふことは産業立地、適地適業主義といひますか、さういつたものを総合的に進められ吾々も参加いたしましたして生きた産業の進み方といふか、はつきりしたものを極めた上電力も對應して行く、さうして進んで行けば相當打開の途はあらうかと思つてをります、一應吾々としては最少限度のもので生産擴充に協力することになつたのであります、餘り數字が大きくては委員會でどうなりますか實は明日審議會があるのですがどうなるかと思つて居

四九

ります、然しこの電力計畫が將來の生擴自體の規模、惹いては我國力をも支配することに鑑みてそれを目標に大いにやらうといふことには恐らく企畫院の方でも御同感だらうと思ひます。

鹽潮氏 色々と御伺ひしたい點が澤山ありますが尙順序といたしまして淺倉さんから一つ發送電方面の建設の狀況及び今後の御考へなどにつきまして一應承りたいと思ひます。

發送電の建設狀況・茲にも人と物の不足

淺倉氏 それでは一寸、概括的のお話をいたします、私の方の仕事は逓信省から建設命令が来たものをやつて行くといふ建前になつて居るのですから、そのお積りで御聽きを願ひたいと思ひます、大體今私の方で計畫をし工事をやらうとして進んで居るのは大雜把に申しますと水力〇〇萬キロ、火力〇〇萬キロ位で〇〇〇萬キロばかりを今やらうとして掛つて居ります、水力は資材などの關係でさう早く出来ないのですが、火力は來年から出來て參ります。〇、〇〇〇千キロといふと大體平均して火力は二年水力は三年位の豫定で進んで居ります、たゞそれを完成するためには却々色々な障礙が次々に起つて來るだらうと豫期して居りますが、その障礙の中の重要なものは人的資源、その

次は物的資源となる譯です、人を得るといふことは非常に困難をして居ります。これは上の方も下の方もなか／＼豫期したやうに得られない、それで初めに豫期した半分位しか人を入れることが出來ないので。これは今後各方面の色々御加勢を願ひまして充實して行かなければ私共の計畫は完全に行かないのです。それから材料についてはもう皆様御承知のやうに至るところに障礙がある。大きな障礙は何といつても鐵にセメントそんな所が大きい障礙ですが、小さい障礙はゴム足袋、カーバイドとかさういふやうな小さいところもあります、最近どうにも斯うにも行かなくて困つて居ります、鐵とセメントには全く困ります、セメントはどんな風になつて居るかといふと、貨車の停滞も影響がある、セメントは出來ても最近貨車の方だ甚だ圓滑を缺いて居る。この間も話ですがセメントを積んだ貨車を何處かへ盗まれてしまつた、セメントを入れた貨車の何處其處行きといふ札が着いて居る、それを夜のうちに取替へて置くとその貨車がそつちへ行つてしまふと云ふ仕掛です(笑聲)、その時發見したのでは既に遅い恐らくそんなことをやつてセメントのやり取りがあるやうです、そんなことで逆もセメントが足りない、ゴム足袋は土木工事などの仕事をするにはどうしても入用ですが、どうしても木棉のゴム底の足袋が不足して困つて居ります、スフの場合は三日か四日で駄目になる、スフでも一圓五十錢から一圓二十錢はする、三日か四日で駄目になつたのでは足

袋の値段として人夫が支拂ふ金が四十錢乃至五十錢それで一日の賃銀を五十錢値上となる、値上げすれば工事費の單價が上ると云ふ次第です、物資の統制がうまく行かないと出来る筈の工事が遅れる、遅れるといふことになる、今いふ通り電力が豫定通り發電されない、其處に生産擴充に澁滯を來す、絡ごつこでどいしても生産擴充は計畫的にやつて貰はないと豫定の通りに行かないと思ふ。

建設費は數倍高原・價昂騰は免れぬ

淺倉氏　それから大體に工事費はだん／＼高くなる昔よりは工事費が高くなつて原價計算が相當高くなるといふことです、これは昨年邊りを標準にして見ると大體火力は倍に行けばいい方です、倍より少し餘計掛る、水力は倍はかゝらないが一倍七、八分になります兎に角倍位は掛らうと思ひます、今のところさういふ風に高いもので今後出來て行くのですから電力は却々安く供給は出來ないそれから今一つ先刻から話がありました、日本の水力はざつと〇〇、〇〇〇千キロ乃至〇〇、〇〇〇千キロ、と云ふ程度といふことになつて居つた、而もその電力は渇水期はずつと減つて大體半分位しかないと思ひます、これは逓信省が詳しく御存じですが、一、二月は半分位に減つてしまふの

であるから、この水力を有効に使ふには火力を以て補はなければならないのでどうしても石炭を使用しなければならぬと思ふのであります、隨つて化學工業みたらやうな莫大に電氣を餘計使ふものは勿論一個の私見ではあります、今後その工業立地に餘程考へなければならぬかと思はれるのです成べくなら電燈とか動力機械工業方面に使用して頂き度いのです。化學工業は滿洲か北支へ行くと一噸五圓以下で出來ると云ふ話です、要するに今後電力の建設費が安くなるといふことは今豫想出來ないと思ひますから電力料といふものは餘り下がる性質を有つて居ない、高くなる傾向ではないかと思ひます。

鹽瀬氏　有難うございました、唯今料金政策の問題が出ましたが私共の考へとして實はこの間まで豊富低廉といふことでありましたがこの低廉といふ文字は他の物價との比較上の問題でありまして今日の物價水準からいへば、今後少々電力が高くなつても必ずしも低廉にもどると云ふことはないといふ風に私共は考へて居りますが、大野さんこの點についてはどんなものでせう。

電力料金の問題

大野氏

五四

御説の通りだと思ひます、兎に角電気料金は先刻も一寸觸れましたけれども早くから電気事業の統制の眼目であつたものですから何といひますか一方に於て統制の力、一方に於ては電気事業の發達の力、その兩方の力が内外呼應してだん／＼低い方へ向つて推移して來たといふのが實情になつて來て居ります、大正三年當時の電燈或は電力の料率を百と考へ、當時の物價指數を百と考へ算定したものは、電燈は昨年——現在でも同じですから現状といつても大した差はありませんが七十三見當に下つて來て居る、電力は六十四位に下つて居る、一方物價指數は二百三十四でさういふ風に騰つて來て居ります、ところが丁度先刻御話のありました様に外の電力原價を構成するフアクターも騰つて來て居るに拘らず、電力の方は今の實狀は過去に於て下げて來たものが大體に於て足踏をして居るために、總體的に見て餘程低廉な状態を維持して居るといふのが真相だと思ふのであります、それで實は今發送電の人から建設の費用が高くなつた將來の電力料金のお話があると吾々非常に御尤もだと思ふと同時に大變に何といひますか痛いと思ふのです、といふのは建設計畫或は料金は政府が決定するといふことになつてしまつて、料金決定に發送電は發言權を持たないやうな組織になつてしまつた、政府が料金を決めるのは今の基準から原價主義によるといふ計畫で來て居りますが實際問題として却々發電料金は凡ゆる物價の構成要素として重要なフアクターになつて

居るため他の物價に對する影響、或は發送電の料金を土臺にして出來上る小賣料金の關係になりますとどうも原價主義といふものが必しも拘束して居られないやうな狀況になつてゐるのです、而もその料金は今日定めたものを半年で變へる、一年で變へるといふことが出來ない、或程度安定を持たせる必要がある、昨今に於ける電力の原價構成のフアクターの變動が餘り激しいために實情はますます／＼電気料金は原價的には悪いといふ狀況が強くなつて行くといふのが現状だと思ひます。

鹽瀬氏 いやどうもいろ／＼有難うございました、大分微に入り細に入るやうでございますが、どうも今日の電力問題には一面統制の問題が絡つて居りますために、もう一つどなたかに御説明を願ひたいと思ひますのは當時發送電は六分配當を以て約束した、それが今日四分配當になつて居る、これはいままでのお話によつて御質問するほどのことではないと思ひますが、尙一般國民への私共の使命として一應この點について發送電の方或は電気廳の方面の御方から御話を願へれば大變仕合せだと思つて居りますが………

豫定配當をなし得ない理由

五五

竹村氏

五六

私は突然此の會に出席を命ぜられましたので何の準備も御座いません、今日は營業部長の宮川が出る筈で、宮川が出れば御期待に副ふ様なお話が出来たと思ひますが、折悪しく風邪を引まして休んで居ります、これも石炭不足で會社の暖房が時に止つたりしたものですから、風邪を引いたのぢやないかと思ひますが（笑聲）御質問にお答へする詳しい數字の持ち合せは御座いませんが、元來、此の會社は其の購入電力料金も販賣電力料金も凡て政府の決定に依るもので御座います。常態に經過致しましたならば豫定の配當が爲し得たことは申す迄も御座いません、會社の購入致します水力及出資に依つて會社の所有となりました火力設備、即ち電源となるべきものは販賣電力に比して遙かに多く御座います。少し位の湯水ではよもや斯ういふ事態には立至るまいと思つて居りましたが、開業早々の五月末頃からぼつ／＼水が少くなるといふ始末、中國筋では御承知の梅雨も空梅雨で七月の末になると全く水がない、水力發電所も其の出力が平年の十分の一に減つたと云ふ偉い騒ぎです、其の爲め或る火力發電所では二年分の石炭を半期で焚いて了つたといふやうな状態で、豊水期には例年殆んど火力を焚かなかつた關東地方に於てさへ其の一年分の半分の石炭を焚いたと云ふ様な次第です、其の爲め非常に石炭の消費が多くなり豫算を超過すること三、四十萬圓に及んだので御座います、三十萬圓と致しましてもそこに六百萬圓の支出増加が考へられるので御

座います、其の上電源の不足から中國地方は七月の下旬、關西地方は八月の下旬關東地方は八月末から供給の一部制限を致しました、此の爲めに生じた収入の減少夫れに期を通じて水力が枯渇してゐた爲め水力發電所の特殊出力が一般に少く、従つて所謂不定時供給を豫定通り爲し得なかつた爲めに生じた収入の減少、大體以上申上げました支出の増加収入の減少が原因致しまして豫定の配當を爲し得なかつたので御座います。

諸般の國策と電氣事業を

どうタイアップして行くか

鹽湖氏

飯尾さん、根本の生産擴充の問題でござりますが、一つお話願ひたいと思ひます。

飯尾氏

綜合計畫といふやうな問題に就て何かお話しして見たいのですが、實は私が申上げ度いと準備して居つたことは皆さんからお話がござりましたから、私から何もお話しすることがありません。發送電としましては電力計畫は政府に依つて御決定になりますので、政府の御計畫になつた方針を實施するといふ範圍のことを代行することでありまして、計畫の根本に就て我々が彼れこれ言ふ

ことは差控へたいと思ひますが、私が發送電會社の席末を汚すやうになりまして、第一に考へましたことは現在四圍の事情から見ましてどういふやうに發送電として供給力を充實し得るか、大體論としては企畫院でお考になつて居ります程度の供給力を充實することはどう考へても難かしいのではないか斯ういふ點に付いて一番に疑問が起つたのであります。それで色々關係當局にも、又その外の方面にも意見を伺つて見ましたが、結局これは仲々困難なことである、それからいくら發送電が頑張つても、無限に増加する需要を十分に満すことが出来るかどうかは、我々が根本的に考へねばならぬ。そこで段々考へて見ますと、發送電會社は、今の營利會社の方針を一擲して、兎に角、國策に順應して國策遂行上必要な電源を作り上げるといふことが任務である以上、これは倒れてもどうしてもやらなければならぬ、ところが色々困難な問題が色々起ります、そこで一番に考へらるゝことは先程山田さんのお話になりました事業の計畫化なり、諸般の國策と電氣事業といふものをどういふ風にタイアップして行くかといふことが一番大事な問題ぢやないか。ところが今時局がどう進展して居る際として政府でも随分御困難なことでもあらうし、これは誰がやつても六ヶ敷い事だが然しさういふことを考へて唯やれる丈けのことをやつて居ればいゝといふことは無責任の話ではないか、矢張り政府の御方針の下に設立された大會社として立つ以上は發送電としてもこの

問題は考へて行かなければならない。

大政治家のカン。日滿支一體の計畫

飯尾氏 段々皆さんの話を伺ひまして、結局これは當面の對策と、恒久對策とに分けて考へなければならぬのではないか、當面の對策としては、これは、どうしても、所用の需要を全部拵へ上げることは困難であるから、全力を盡して今の状態で集められるだけの資材と人を集め極力努力する恒久對策はこれは先程もお話のありましたやうに、矢張り日、滿、支を打つて一丸とする一つの根本對策といふものを打樹てなければならぬ。大正の四年頃でありましたが、野田大塊氏が逓信大臣の時代斯ういふ一つの話があつた。一體日本の水力といふものは幾らあるか、と質問があつて之に對し水力調査の結果約千二百萬キロ位であらうと説明した際、只一吉野田さんは「大陸へ移るまでだ」と仰しやつた、當時私は政治家といふものは遠大な偉い考を持つて居るものだと思ひましたが其後昭和の初期になりました電力の統制問題に關聯して逓信省に電力根本調査委員といふものが出來まして、専門家が十人ばかり集り調査した際には、内地の水力は十數年しか保たないといふやう

な話もありました、これは誠に心細いことだ、これはどうしても考へなければならん問題であるといふことが言はれて居りました。先程馬淵さんから日本は何か貧國であるといふお話を伺ひましたが、これは見様に依つては日本の國力が増進して在來の考で行つたんぢやいけない、もう一歩進んで考へなければいけない、斯ういふやうな時代が來たのだと我々は考へて居るのであります、その意味に於て、先程の日滿支を一體とした計畫を樹てる、さうしてそれをどういふやうに作つて行くかといふことに付いて、方針をお樹てになつて御指示を願ふことが必要ぢやないか、斯ういふ様に考へて居ります。

國家管理を前進せしめよ

飯尾氏 餘り時間も長くなりますから、細かいことは止めますが、も一つ、電力管理の問題に就きまして私は以前から疑問を有つて居つたのであります、どうも送電線路と火力丈けの出資では統制を計ることが充分であるかどうか、どうしても水力發電所をも総合しなければ完全な管理は出來ないといふことを私は考へて居ります。勿論これは私一個の私見であります、獨り送電線、火力發

電所ばかりでなく、既設の火力發電所まで全部といふところまで進めなければこの管理は完全に出來ないと考へて居ります。これは將來の問題として御考究を戴きたいと思ひます。それから今の國策の計畫化でござりますが、これは現在の如き事件に打付かつたのでありますから當分困難な點もあらうと思ふのであります、電氣事業と國防計畫なり其の外の事業なりと如何に組合せて、電氣事業をどういふ風に組込んで行くかといふ根本が決らなければいけない、その意味に於て各方面の色々の意見を集められて、これに依つて電力國策の方向を決定して戴くことが焦眉で急ぢやないかと始終考へて居ります。まだ色々外にござりますが既に皆さんがもう御論議になつた後でありますから、同じことを繰返すことは省くことに致しまして、只簡単にそれだけに致して置きます。

鹽瀬氏 結局するところ一番最初の問題に關係するやうであります、只今までの皆さんのお話に生産擴充の重點主義、或は産業の合理的擴充乃至は生産擴充の綜合的計畫、それから別に勞力不足問題といふやうな重大問題が横たはつて居るやうにお話を承りました。これ等の點に就て何か御意見がありますれば何方からでもお話願ひたいと思ひます。……それでは大分時間も過ぎましたので、この邊で最後の締くりに一つ馬淵さんから日本の將來の國民に示すべき覺悟といふやうな意味に於てですね、何か締くりのお話を承りたいと思つて居ります。

歴史の編纂は不可・歴史を作る覚悟

生産擴充もこの意氣込が必要

六二

馬淵氏 縮くゝりは弱りましたな、まあ我々の覚悟と謂ひましても、大體前に申しました事を繰返すことになつてしまうのでありますが、兎に角我々の新しい日本といふものを建設して行く爲に長い時期に亘つて日本の産業界といふものを躍進させて行かなければならんと思ひます。それが爲に日本の土地といひましても、それは何も内地だけの問題ぢやありません。勿論大陸と内地を通じての問題であります、大陸と内地を通じまして、一貫した方針に依つて社會的或は國防的見地からそれ〴〵適當なる場所に適當なる種類の産業を發達さして行かなければならんと思ひます。それでそれが爲に基礎になるのは石炭であり、電力であり、又延いては鐵であり、セメントであるといふことになります。そこでその基礎になるところのものを、なんとかして、非常に困難はあるのでありますが、兎に角なんとかして擴充を敢行して行く、その意氣込みが最も必要でないかと思ひます、でこれが爲には絶大の決心を要するのでありまして、右顧左眈餘りに色々なことを考へて

ゐますと出來ないのでござゐます。そして又總てを考へて計畫を樹てゝやらなければならんといふやうに餘りに萬全の策を取つて居りますと、事實の方がどん〴〵先に進んで参りまして、計畫が計畫でなくて歴史の編纂になつてしまふ、我々の仕事は歴史の編纂であつてはいけませんので、その考で多小調査の不十分な點があつてもそれは念頭に置かずに、又多少亂暴であると思はれてもこいつは意氣込みを以て進んで行かなければならん、少なくとも方向さへ間違はなければ進んで行かなければならんと思ふのであります。考へ倒れにならんやうに、又後の祭にならぬ様に進んで行かなくてはいかんのぢやないかと思ひます。

鹽潮氏 それではこの邊で……いろ〴〵有益なる御意見承りまして有難うござゐました。

電力問題研究所設立趣意

生産擴充下の電力問題は産業上及び國民生活上極めて重要である。特に電氣工業界は、曩に他の産業界に先じて、國家統制様式として高度の機構たる官理を實施し、將來我國の産業發展の基礎的な役割を果さんとする一大使命あり。

電源の積極的開發、經營の合理化、即ち、發、送電を通じたる総合的經營の妙味を以て、將來に於ける豊富なる電力の供給を企圖してゐるが、この理想實現は、一つに懸つて今後の計畫と、實施運營の、よき機能發揮の上に齎らされるものと信ずる。

而してそれは、一般國民の電氣に對する深き理解と、積極的な協力と、建設的な批判とが必要とさる可く、電力問題研究所はかかる機關として生れたものに外ならない。

されば、本研究所は廣く一般國民と共に研究すると共に、一面權威ある機關たらしめ、電氣思想の普及徹底を圖り、併せて健全なる輿論指導に任ぜんとするものである。

所長 波津久劍

昭和十四年十二月二十四日印刷
昭和十四年十二月二十七日發行

定價參拾五錢

發行兼
編輯人

東京市京橋區銀座西二丁目三番地
電力問題研究所

鹽 瀬 三 郎

横濱市中區西戸部三ノ三〇〇

印刷人

東京市京橋區京橋一丁目三番地

石 黒 鶴 喜

印刷所

東京市京橋區京橋一丁目三番地

光 文 堂 印刷 所

東京市京橋區銀座西二丁目三番地
發行所 電力問題研究所

397
313

終

